

第 4 3 回理事会 議事録

1 開催場所

札幌市中央区北 5 条西 6 丁目 札幌センタービル 5 階 C 2 会議室

2 開催日時

2023 年 4 月 27 日 (木) 10 時 00 分から 10 時 55 分まで

3 理事総数 9 名

4 出欠等の状況

理事(出席)	9 名	阿部 啓二、佐藤 季規、谷 一之、田村 亨 土谷 将人、林 美香子(Web 会議システムを通じての出席) 東川 敏文、水野 治、山崎 弘善
監事(出席)	2 名	末永 仁宏、山本 眞樹夫
議事録作成者		土谷 将人(専務理事)

5 定足数の報告

定刻に至り、阿部理事長が挨拶の後、理事 9 名のうち過半数が出席しており、1 名の出席者については Web 会議システムでの出席となり、出席者が一堂に会するのと同等に意見表明ができる状態となっていることを確認の後、定款第 4 1 条の規定により本理事会が成立している旨を告げた。

6 議案の審議状況及び議決の結果等

次に、阿部理事長から定款 4 4 条第 2 項の規定により、議事録署名人を理事長、末永監事、山本監事とする旨を告げて議事に入った。

第 1 号議案「2023 年度事業計画書(案)について」及び第 2 号議案「2023 年度収支計画(案)について」の件

第 1 号議案及び第 2 号議案については密接に関連することから、一括して審議を行うこととし、土谷専務理事より資料 1 に基づき事業計画に関して説明を行った後、善行部長より資料 2 に基づき収支予算に関して説明を行った。また、「第 2 回あり方検討会議」の検討状況についても報告した。

本件に関して議長から質問、意見などの発言を求めたところ、次のとおり発言があり、理事長、専務理事、事務局から説明があった。

佐藤理事

インボイス制度の対応状況と、職員に対する賃上げについて適切に配慮しているか。

土谷専務理事

インボイス制度については、インボイスを発行する団体の登録は既に終わっており、新年度以降、財団からの請求書については登録番号を記載して発行し、個人事業主から受領する請求書については、内容を確認しながら進めていきたい。また、賃上げについては、春闘の状況や財団の収支を踏まえ、ベースアップを含む賃金改定を実施している。

田村理事

事業計画について、「多様化する地域や社会の課題解決に向けた連携」という新しい試みは、組織全体をどうするか検討している時期に、あえて前に踏み出すのは非常に大事なことでありと評価する。はまなす財団の活動の原点は、戸田会長時代の産業クラスターであり、農林水産

品を一次産品のまま売るのではなく、地域単位、あるいは市町村単位でそこに付加価値を付けて、二次産業化していくというものだった。これは非常に大事なことであり、1990年から現在まで様々なところで具体的な成功例も出てきている。昨今のはまなす財団の活動のひとつの大きな傾向としては、人づくりにシフトしているが、その方向性は正しいと思う。日本中でそれを求めている市町村も多いが、それを評価する方法が難しい。数値的には出ない事だが、具体的に評価できる何らかの軸を作って常に評価し続ける工夫をして欲しい。

谷理事

地域経営塾について、行政と民間の方を混合させた研修は非常にバランスが難しい。地域経営という視点で考えると行政の方が相応しいが、行政の方もこれからは民間の考えに触れたほうがいいと思う。どのような割合を目標としているのか。

土谷専務理事

2022年度の参加者は行政の方が7割、民間の方が3割程度であった。また、メンバーの中身についても重要で、2022年度を例にとると、民間の方の中に、柏尾さんという帯広市の中心街地域活性化に取り組んでいる方がおられ、行政の方もいい刺激を受け、非常に効果的だったと感じている。行政と民間のバランスのご指摘も含め、今後の事業に生かしていきたい。

阿部理事長

地域経営塾のアクションプラン発表会に参加したが、行政の方、民間の方がお互いに刺激を受けて向上している印象を受けた。今年度で4期目を迎え、これまでの1期生～4期生が一堂に会する機会（特別回）も提供し、お互いのネットワークを構築できたと思う。それによりお互いの地域の話ができる関係を作り、今後も切磋琢磨して刺激し合いながら向上していけたらと思う。

東川理事

収支予算の中で、「地域づくり活動発掘・支援事業」が昨年度より300万円程増えているが、具体的な中身、イメージを聞かせて欲しい。

土谷専務理事

この事業が始まって10年が経ったこともありイベントをやりたいという事と、2023年度は外部の専門家を伴走支援として派遣していきたいと考えている。助成金（100万円）を使って専門家を依頼することもできるが、支援先から提案していくという事ができていない事情もあり、財団側が判断して現地に専門家を派遣して相談対応していくという形の費用を盛り込んでいる。

東川理事

我々のネットワークの中で専門家の派遣など協力出来ることがあればぜひ一緒にやりたい。

林理事

地域経営塾に帯広の柏尾さんが参加してくれたことは、非常にすごいことだ。実践的な活動をされており、こういう方に入っただけの事が大きな力になっていく。非常に多忙な方だが、財団から働きかけをして参加いただいたのか。

小倉部長

我々のメールマガジンが柏尾さんの目にとまり申し込みいただいた。柏尾さんは、地域の大切さについて我々と同じ考えを持っており、今後も地域経営塾に参画していただきたいと考えている。

林理事

「多様化する地域や社会の課題解決に向けた連携」について、3つの団体で新しい事をするというのは素晴らしい事だが、どこかがリーダー格にならないと進まないのではないか。

小倉部長

はまなす財団は「経済」、公益財団法人環境財団は「環境」、NPOサポートセンターは「社会」という守備範囲があり、お互いの強みを生かすということで、この1年間、試験的に連携に取り組んできた。リーダー格は作らず、プロジェクト毎にリーダーを決めている。

その後審議の結果、第1号議案及び第2号議案については、原案のとおり出席理事全員一致で可決した。

第3号議案「変形労働時間制の廃止ならびに就業規程の改定について」の件

善行部長から資料3に基づき変形労働時間制の廃止ならびに就業規程の改定について説明をした。その後、審議の結果、原案のとおり出席理事全員一致で決定した。

7 その他

会議次第4「その他」に入り、議長から役員及び事務局に発言等を求め、次回理事会の予定などについて説明し、その後特に発言はなく、議長が「以上をもって本日の議事は、全て終了した」と宣言し、10時55分に理事会を閉会し、解散した。

上記の議決等を明確にするため、定款第44条第2項の規定に基づき、出席した理事長及び監事は、本議事録に署名、捺印する。

2023年4月28日

公益財団法人 はまなす財団 第43回理事会

理 事 長 阿 部 啓 二 ㊟

監 事 末 永 仁 宏 ㊟

監 事 山 本 眞 樹 夫 ㊟